

活用の中長期視点

検査予約まで 包括管理の仕組みに

荒木篤実 パクサヴィア創業パートナー

遅々として進まなかった国内でのワクチン接種。オリンピック開催もあり、やっと進み出したのは朗報だ。国内での治療薬の完成も期待されるが、現時点で唯一の切り札となるワクチン接種拡大の意義は大きい。そこで、見えない敵であるコロナウイルスとどう闘うべきか、ワクチン接種とその情報活用としてのワクチンパスポートの効用について考察してみる。

闘いは、まずは「敵を知り己を知る」が基本だ。ウイルスには、植物の種がごとく武道の柔道とも似て相手の力を利用して勝つ術があり、気づかれず人の体内に侵入する。さながら忍者顔負けの術だ。そこで、生涯無敗を誇った剣豪武蔵の五輪書にある陰、影、敵のたとえから基本対策を復習してみる。

1つ目は「陰を動かす」だ。相手の動きが見えないとき、まずその陰を動かすべき、つまりウイルス側の過去の活動データを徹底分析し、打ち手を出すべきである。コロナウイルスは感染への抵抗力・抗体力の弱い人をターゲットに変異し感染拡大している。人流を抑制すれば感染拡大を瞬間的には抑えられるが、解除したとたん再拡大を繰り返す。ワクチンには発症予防と重症化防止に効果があり、感染を完全に防止できなくとも被害を最小限にできる。これらをまず頭に入れておくべきだ。

2つ目は敵が攻めてきたとき、その「影（動き）を抑える」ことだ。いま世界中で猛威を振るうデルタ株に対し人類は完全に後手だ。抗体生成能力が

低い人が特に感染しやすくウイルス側が自己増殖のスピードをさらにアップ。これを抑止するには、人が一切動かないか、ワクチンか、この2つしかいまは手立てがない。経済再生のためにはワクチンこそが選択肢だ。

最後の鍵は「敵の身になり」考えることだ。ウイルスにとって嫌なことは、ほとんどすべての人間が抗体を持つ、つまり集団免疫の獲得である。将来の変異傾向を予測をすることができたなら、さらに人が優位になる。

以上から、見えない敵を見えるようにする可視化こそが対ウイルス勝利の鍵といえよう。

一時の消費喚起策でなく

現在、欧州各国で街行く人の顔は総じて明るい。イタリアの観光名所などでは、早速ワクチンパスポートでの入場管理の運用も開始されている。その仕組みはシンプルで、①氏名や生年月日などの個人情報、②接種したワクチンの種類、回数、接種日時、場所（国）、③これらの情報をID化したユニークな番号（QRコード）を各国政府がデジタル化し、欧州連合（EU）圏内ならどの国でも相互にデータ参照を可能にするものだ。基本はデジタルだが、印刷して四つ折りにすればパスポートと同じサイズになるよう工夫されている。利用者は印刷紙面またはアプリでこのQRコードを提示し、運用側は専用ア

プリでそれを読み取り、データを復元して接種を確認する。

現状、欧州ではほぼすべての国で屋内入場や交通機関利用の際、マスクを着用していないと入れてもらえない。マスクをあれほど嫌っていた欧米人が当たり前にもマスクをするようになった。この行動の変化は深層心理の変化が大きく作用している。交通機関も窓を開けた状態が常となり、風通しの良くない場所、特に屋内や閉鎖空間ではマスクは感染防止に有効との意識がそれまでの常識を覆したのだ。

ワクチンパスポートを奨励する施策は、産業界の提言によれば、優先入場や旅行先での活用、飲食店等での割引など、接種証明の提示で各種メリットを受けられるというアイデアだ。しかし、より重要なのはワクチンそのものの意義、つまり接種しないより接種による総合的なメリットが大きいのという意識を人々が持つようにすることだ。単発の値引きという施策は、一時の消費にしか効かないことはマーケティングの常識だ。短期施策にすぎず賛成しかねる。

それよりも中期的に考え、パスポート保持者対象の専用レーンやソーシャルディスタンスを緩和した専用鑑賞ゾーンの常設化などが有効だろう。さらにワクチンを将来継続して接種した場合や検査予約など、すべての管理が簡単で便利なデジタルツールだとプロモートすべきだ。欧州各国ではコロナ検査の予約はオンラインで申請や結果閲覧が可能だ。紙や電話だけの仕組みでは、督促や通知などにかかるコストが高すぎ、利用者が忘れがちになる。さらに長期的には、厚生労働省とも協力してワクチンパスポート保持者の医療機関での各種優遇策の検討などの施策も強く望まれる。

旅行業での活用法としては、交通機関利用時や施設入場時にワクチンパスポート保持者にはその場で検査を格安でオプション提供することなども検討に値する。特に迅速抗原検査キットの原価は実はそれほど高くない。PCR検査は100%とはいえない精度で、結果判明に時間がかかるので、時と場合で使い分けたほうがよい。外出時に検査できる手



EUのデジタルパスポート。筆者の住む欧州では日常ツールとして定着が進む光景を目にする

軽さと安心を同時に売るので。

行政レベルの施策としては、集団免疫獲得の早期実現に協力する意味でも、21年中にワクチン接種完了者にはなんらかのメリットを提示するのも一案だ。たとえば、飲食店での入店制限の解除を認めるというアイデアもあるだろう。

大局を観る眼を持つ

欧州主要各国では、PCR検査も無料の国が多く、ドイツでは学生に週2回の無料の迅速抗原検査を実施する州もある。総合的に見えない敵を可視化するための感染防止対策の徹底が日本よりはるかに進んでいる。ウイルス検査とワクチン接種は現時点で同時並行して進めるべき2つの柱であり、結果的に経済回復がずっと早いと心得るべきだ。ワクチンパスポート制度も検査予約等とセットで使えるようにすれば、日常ツールとして定着し、旅行業復活にも大きく貢献するだろう。

人類の歴史は疫病との闘いの歴史でもある。武蔵の心得は、剣術（技）に執着せず「観見2つの眼」、すなわち大局からの観の眼と現実を認識する見の眼を持ってと説いている。中国の四書五経の1つ、易経の「観国之光」を語源に持つ観光はいまこそ未来の光を観るべき時だ。剣豪武蔵の時空を超えた助言が奏功することを信じて闘いたい。



Profile

あらか・あつみ ● 日産自動車勤務を経て、アラン（現ベルトラ）創業。18年1月から現職。マーケティングとITビジネスのスペシャリスト。ITを駆使し、日本含む世界の地場産業活性化を目指す一実業家。